

ろうさい病院つうしん

病院情報誌 第10号 平成16年4月30日発行



発行所: 中部労災病院

〒455-8530

名古屋市港区港明1-10-6

TEL 052-652-5511

FAX 052-653-3533

<http://www.chubuh.rofuku.go.jp/>

病診連携への新たな取り組み

中部労災病院副院長 小林 建仁



平成16年度から病診連携室の組織的な位置づけが変更になりました。従来は医事課の中の一部署でしたが、病診・病病連携の重要性を鑑み院長直轄の組織として地域医療連携室を立ち上げ、私と佐野隆久の両副院長が担当することになりました。

診療所や産業医の先生方との間で担う役割は今後ますます分化していくものと思われます。相互の信頼関係を築きながら地域住民の健康を守るための努力を積み重ねていきたいと思っています。

中部労災病院地域医療連携室では以下のことを重点項目として掲げています。

- ①紹介患者さんを大切に、診療所ごとに患者さんの病状の経過について、きめ細かに、速やかに、定期的にご報告いたします
- ②救急の患者さんに対しては24時間何時でも適切に対応いたします

③逆紹介を積極的に推進します

④開放型病床の設置を視野に入れ、医療機器の共同利用を進めます

⑤先生方のご要望に対し速やかに対応いたします

MRI・CT・内視鏡などの検査依頼や、歯科インプラント、各科の予約診療、糖尿病短期入院の予約などを地域医療連携室で受け付けています。

時間外対応（17時～19時30分）もしていますので是非ご利用下さい。

これからの課題として、地域医療連携室を住民の健康相談や最新の医学情報の提供窓口として機能させ、先生方と協力しながら地域医療に貢献していけたらと思っています。今後ともどうかよろしく願いいたします。

平成16年4月1日より、中部労災病院を含む全国の労災病院等を設置運営している労働福祉事業団は、独立行政法人へ移行いたします。

したがって、当院は、「労働福祉事業団 中部労災病院」から、「独立行政法人労働者健康福祉機構 中部労災病院」となります。

腹腔鏡を用いた消化器外科手術



中部労災病院 外科部長 小木曾 清二

日本で最初の腹腔鏡下胆嚢摘出術が行われてから15年余り経過しました。腹腔鏡下の消化器系手術は最近目覚しく進歩し、保険適用の拡大に伴ってその適応範囲を広げて徐々に定着しつつあります。腹腔鏡手術は従来の開腹手術に比べて手術創が小さく、低侵襲であることが最大の利点であり、特徴でもあります。この特徴を十分に引き出せるように当科でも適応を検討しながら、積極的に本手術を導入しております。

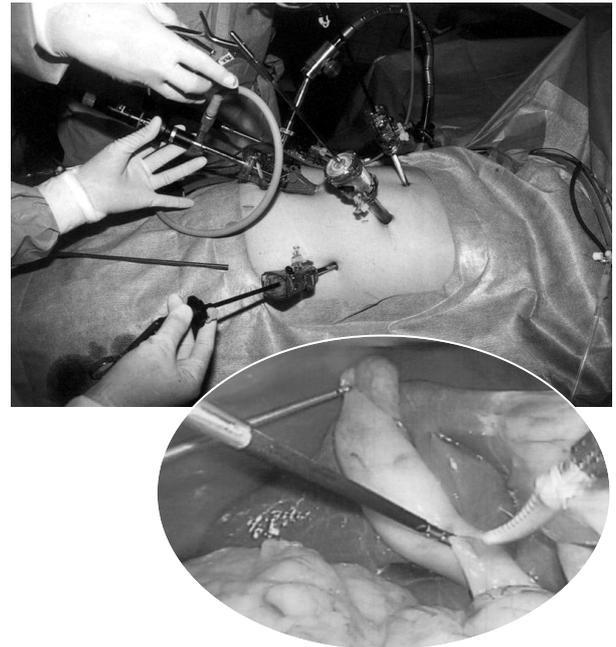
腹腔鏡下胆嚢摘出術 胆石症手術の第一選択の治療法としてすでに定着しており、当院でも約80%の患者様に腹腔鏡手術を行い良好な成績を得ております。

腹腔鏡下総胆管結石切石術 内視鏡的に乳頭から切石する方法（内視鏡下乳頭切開術、内視鏡下バルーン乳頭拡張術）が広く行われていますが、この方法で切石不成功となった場合に、当科では腹腔鏡下手術を積極的に行っています。切石方法としては経胆嚢管的と総胆管切開の二通りがあり、症例ごとに慎重に術式を選択しています。

腹腔鏡補助下大腸切除術 当初は適応が良性腫瘍や早期癌症例に限られていましたが、手術

器材や手術手技の改良によって鏡視下でのリンパ節郭清が安全かつ十分に施行可能になり、進行癌例にも適応が広がりました。当院でもリンパ節郭清と大腸の脱転操作を腹腔鏡下で行い、5～6cmの小開腹創から病変部大腸を摘出し、腸吻合を行うという術式（腹腔鏡補助下手術）を採用しております。

この他胃十二指腸潰瘍穿孔、急性虫垂炎穿孔例などの緊急手術にも適応が広がっています。今後さらに手術手技の向上に努めてより安全で侵襲の少ない治療を目指して参ります。



● 外 科

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1診(初診)	岩田 博英 医師	小林 建仁 副院長	小木曾清二 部長	小木曾清二 部長	小林 建仁 副院長
2診(再診)	宇野 雄祐 医師	岡本 好史 副部長	水谷 哲之 医師	宇野 雄祐 医師	岡本 好史 副部長

陥入爪の治療、 お困りではありませんか？

中部労災病院 形成外科 松岡 京子



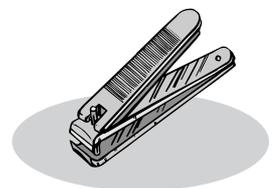
陥入爪とは、爪の端が食い込み痛くなる疾患です。この食い込みが高度になると、激しい疼痛やキズを生じ、炎症を伴う不良肉芽を形成します。爪のキズは大変痛く、つらいものです。

陥入爪の原因は、先天的な要因は少なく、後天的に生ずるものです。ハイヒールなどの先の細い靴と、深爪が主な原因です。特に、爪の角を斜めに深く切り込む切り方を続けていると爪陥入変形を生じます。陥入した爪は伸びてくると痛みを生ずるため更に深く切り、このため更に陥入がひどくなるという悪循環を繰り返し悩んでいる方が多いようです。陥入が軽度であれば、きつい靴を禁止し、爪切りを控えて角を直角に残し少し長く伸ばすように指導すると改善してきます。

陥入が高度で、何度も炎症を繰り返している方には手術を選択します。しかし、従来の楔状切除法は、術後の痛みが強く、出血も多くて患者様に苦痛を強いました。その上、せ

つかく痛い思いをして頂いて手術をしても、すぐに再発してしまったという経験はございませんか？

当科ではフェノール法という方法で手術を行なっています。文献上の報告は1945年のBollが最初ですが、その後様々な改良が加えられ、本邦では1990年代に入り普及していました。現在、形成外科では広く行われている方法です。フェノールにより側爪郭の爪母を腐食させる方法で、手術手技が簡便で、再発率が少なく、術後疼痛が軽度なことが特徴として挙げられます。また、感染期でも、不良肉芽がある時でも、いつでも手術は可能です。手術は外来で、15分程度で終了します。フェノールは神経にも作用するため術後の痛みはほとんどありません。翌日から靴をはくことができ、立ち仕事や入浴が可能で、患者様に大変喜ばれています。術後、爪は平らになり幅が少し狭くなります。



● 形成外科

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
一般診察	松岡 京子 医師	奥村 誠子 医師	交代制	松岡 京子 医師	奥村 誠子 医師
眼科形成			田邊 吉彦 医師		

連携室だより

地域医療連携室を設置

4月1日より「病診連携室」は「地域医療連携室」と名称変更するとともに、業務の拡大、体制の充実を図ります。

拡大する業務は、従来の病診・病病連携窓口業務に加え、産業医の方々に対するモデル医療の普及窓口、行政機関への協力窓口としての機能を備えることとしました。

また、組織も下記表のとりのメンバーとし、連携サービスの充実を図っております。どうぞご利用下さいますようお願い申し上げます。

● 地域医療連携室のご案内 ●

地域医療連携室

地域医療連携室長	— 連携係長 —	事務員	河野 奈々
小林 健仁	桑山 修一	事務員	金井 久実
佐野 隆久		MSW	近藤 博保
		社会復帰指導員	小森 範和

受付時間	8:15~17:00(平日) (ただし放射線科の検査のみ8:15~19:30)
受付方法	ファックス若しくは電話 052-652-5716 (FAX・TEL共用) 052-652-5950 (TEL) ※土日、祝日及び時間外でお急ぎの紹介の場合 受付部署: 救急部 電話番号: 052-652-5511(代) 内線250 FAX番号: 052-652-5515

〈運営協議会〉

2月28日(土)午後5時30分~6時30分まで、名古屋市医師会病診連携担当の清水理事をはじめ、運営協議会委員の先生方と当院関係職員8名により、中部労災病院病診連携システム運営協議会を開催いたしました。

議題として、中部労災病院における平成15年度病診連携運営状況及び平成16年度事業計画について協議し、その後意見交換を行いました。

〈意見交換会〉

同日の午後6時30分より、中部労災病院病診連携医の先生方と当院職員との意見交換会を開催いたしました。

おかげさまで、和やかな雰囲気の中、忌憚のない意見交換の場をもつことができ、有意義な会となりましたことに、お礼申し上げます。

地域医療機関との連携を更に深めてまいりますので、よろしくお祈りいたします。